

長崎市

ながさきし

自然環境

しぜんかんきょう

ガイドブック



自然環境ガイドブックとは、
子どもたちや多くの市民が様々な機会を通じて、
長崎市が誇る自然の風景(山、海域、河川、湿原)、
地形・地質、希少動植物など、
豊かな自然にふれあうことにより、
自然への理解、環境意識の啓発、
自発的自然保護を図るための情報誌です。

[目次]

- 1 多様ないきものが見られる地域
【一覧表】【位置図】
- 3 ながさき いきもの自然百景・景勝地
【山、海域、河川、湿原など】【位置図】【交通アクセス】
- 8 私たちで守ろういきものたち
【植物 1・2】【両生類・爬虫類・哺乳類】【鳥類】【昆虫類】【水生生物】
- 14 身近な生態系が危ない～外来種、知ってますか?～
- 16 自然・歴史・天然記念物
【国・県・市指定天然記念物など】【位置図】【交通アクセス】
- 21 身近な自然とのふれあい
- 22 わたしたちにできること ～小さなことからはじめよう～
- 22 用語集

多様ないきものが見られる地域 —長崎市自然環境調査委員からの提言—

「多様ないきものが見られる地域」とは、自然環境が多く残っている長崎市内で特に多くのいきものたちの生息が知られる地域をリストアップしたものです。

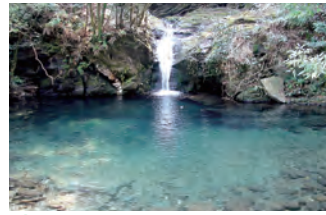
地域	地域の特徴	法規制等
① 大江川の河口干潟	ユキガイやカガミガイ、シオヤガイなど汽水・内湾性の貝類が生息しています。また、ハマグリやタイラギと思われる新鮮な貝殻も確認されています。	
② 藤原川形上岳どぶ池	この溜池には、ミミカキグサ、カキラン、ヤマドリゼンマイ、モウセンゴケなどの湿地植物や希少種のドンコ(魚類)、ハッチョウトンボが記録されています。	
③ 県民の森(岩背戸溪谷)	広大な森をステージに豊かな自然を体験できる森林公園となっています。溪谷沿いにはシダ植物が多く、草原、二次林、沢など多様な環境が残っており、多くの植物が見られます。また、夏鳥のオオルリやムカシトンボなどの飛翔が見られます。	県立自然公園 鳥獣保護区
④ 神浦川上流域	人為的な影響が少なく、護岸等がほとんどなされていない場所で、シダ植物が多く、チャルメルソウやナメライドモンジソウなどの溪流に生育する植物が見られます。また、ルリヨシノボリやタカハヤが多産し、ムカシトンボやカジカガエルが生息するとともに、神浦ダムで多くの鳥類が観察できます。	県立自然公園 鳥獣保護区
⑤ 西海川の河口干潟	シオクグ、シバナ、ウラギクなどの塩生植物やハマボウが多く見られ、巻貝のヒメカノコやヒロクチカノコガイは県内でも有数の生息地となっています。また、クシテガニなどの希少なカニ類も生息しています。	
⑥ 檜の久保湿地(休耕田)	カキラン、ミズトンボ、ホシクサ類などの湿地植物が最も多く、昆虫類ではハッチョウトンボが確認されていますが、湿地の面積が小さいことが懸念されます。	
⑦ 黒崎永田湿地自然公園	県内でも数少ない湿地を有する公園で、ヨシやガマ類など優占した低湿地群落となっています。また、マルタンヤンマ、ネアカヨシヤンマ、コフキヒメイトトンボなどの希少種が見られます。一方で、外来種や水生植物の繁茂により、生態系の変化が見受けられます。	
⑧ 多以良川の河口干潟	塩生植物のシオクグが多く、この汽水域に形成されている泥質干潟には、ドロアワモチなどの貝類、ハクセンシオマネキなどのカニ類、タビラクチ、トビハゼなどの魚類が生息しています。	
⑨ 相川町馬乗川平休耕田とその周辺	相川休耕田内には、県内唯一のオオバシナミズニラやニッポンイヌノヒゲ、ウスゲチョウジタデなどの湿地植物が生育しています。また、ヘイケボタルをはじめゲンゴロウ類、ガムシ類などの水生昆虫が豊富で、カスミサンショウウオ、ニホンアカガエルなどの希少な生物も見られます。相川川には、ゲンジボタル、アユ、ヤマトヌマエビなどの希少種も生息しています。	
⑩ 矢筈岳山頂・東部湿地群	山頂部は、露岩が多く草地となっており、オミナエシ、オトコヨモギ、カワラヨモギなどの草原植物が見られ、湿地にはヤマドリゼンマイ、サカバサトメシダ、ミズトンボなどの希少な植物が生育しています。	
⑪ 岩屋山	岩屋神社から岩屋山頂までの斜面には、スタジイーミズバイ群集などの自然林が残されており、イワヤナギシダ、ナガサキシダ、ヒカゲワラビなどのシダ植物が多く、樹林性昆虫も多く生息しています。また、岩屋神社付近には、水場も多くカスミサンショウウオなどが産卵し、その幼生の生息地となっています。	
⑫ 金毘羅山	市内では珍しくクスギなどの落葉樹が混じった里山で、キンラン、ギンランなどが林床に見られます。また、昆虫類もアオマダラタマムシ、モンキタマムシ、ゴイシシジミ、ミズイロオナガシジミなどが見られ種類も豊富です。	
⑬ 稲佐山	凝灰角礫岩の尾根には、イワヒバやダンギクが多く、崖地にはナガサキギボウシ、バйкаアマチャなどの貴重な植物が生育しています。	県立自然公園
⑭ 八郎川の河口干潟	希少なタケノコカワニナ(巻貝)やハクセンシオマネキ(カニ類)が生息し、3月上旬にはシロウオの遡上もみられます。また、シラタエビやチクゼンハゼが記録されています。	県立自然公園
⑮ 本河内高部・低部ダム周辺の森	烽火山南麓、本河内低部水源北方の標高220m付近にキレツツトリモチ(天然記念物)の自生地があります。また、冬鳥のオシドリが飛来しています。	鳥獣保護区
⑯ 市民の森・こしき岩付近	市内で貴重な草原が残っており、キンバイザサ、シバハギが多く、まれにホタルカズラ、コバンムグラ、ホンバヤマジソなどの貴重植物が生育しています。また、ツマグロキチョウ、シジミチョウ類などが生息するとともに、愛宕山には、シイに依存しているシジミチョウ類や小型のタマムシ類を見ることができます。	県立自然公園 鳥獣保護区
⑰ 川原大池・周辺植生	長崎県内最大の海跡湖で、冬鳥のオシドリの飛来や淡水魚が生息し、一帯にはハマナツメをはじめ、ハマボウ、オオクグ、テツホシダなど貴重な植物が多く、「川原大池樹林」として、長崎県指定の天然記念物になっています。湖畔の遊歩道を散策すれば、季節によってチョウトンボ・ベニトンボを見ることができ、水と森の自然にふれあうことが出来ます。一方で、外来種のオオクチバスなどの生息が確認されており、生態系に影響が懸念されます。	県立自然公園 鳥獣保護区
⑱ 野母崎権現山一帯	権現山は、椿の名所としても知られ一帯が椿公園となっています。国内外の椿250品種約300本の植栽に加え、ヤブツバキ1万数千本が自生しています。また、ミヤコジマツツラフジ、キノクニスゲなどの絶滅危惧種や昆虫類の希少種ササバカミキリ、マメクワガタ、アカマダラコガネなどが知られています。	県立自然公園
⑲ 野母崎樺島町田原川(地下ダム)	昭和48年度に簡易水道水源として整備されたダムで、オオウナギの生息が確認されており、ドジョウが多数生息しています。また、クロゲンゴロウ、コオイムシなどの水生昆虫も生息し、鳥類の渡りのコースとしても知られています。海岸にはハマオモト群落やヒメハマナデシコ、ソナレムグラ、ボタンボウフウなどの海岸崖地植物が多く生育しています。	県立自然公園



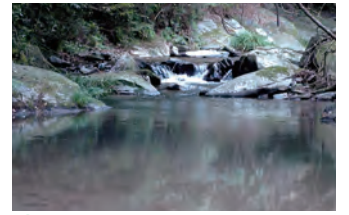
1 大江川の河口干潟



2 藤原川形上岳どぶ池



3 県民の森(岩背戸溪谷)



4 神浦川上流域



5 西海川の河口干潟



6 榎の久保湿地(休耕地)



7 黒崎永田湿地自然公園



8 多以良川の河口干潟



9 相川町馬乗川平休耕地とその周辺



12 金毘羅山



10 矢筈岳山頂・東部湿地群



11 岩屋山



13 稲佐山



13 稲佐山



16 市民の森・こしき岩付近



14 八郎川の河口干潟



13 稲佐山



17 川原大池・周辺植生



15 本河内高部・低部ダム周辺の森



13 稲佐山



19 野母崎樺島町田原川(地下ダム)



18 野母崎樺山一帯

平成26年(2014年)3月、県内の優れた自然や代表的な動植物を長崎県が登録しました。(100選定)
長崎市内では、10ヵ所が選定されています。



① 夫婦岩 (以下宿町)

波に侵食を受けた海食崖の景観を呈し、暗緑灰色の硬い岩石が露出しています。この岩石は、地質学的には「野母変はんれい岩複合岩体」と呼ばれるもので、玄武岩質のマグマが地下深部で徐々に冷えてできた、輝石や斜長石を主成分とする「はんれい(斑糲)岩」が造山作用等に伴う高圧により変成を受け、地殻変動によって地表に露出したものです。この地域の変はんれい岩の放射年代を測定した結果、約4億8千万年前という非常に古い生成年代を示すことが判明しています。

(長崎県指定天然記念物)



② 脇岬のビーチロック (脇岬町)

九州地方では最北のビーチロックで、非珊瑚礁地域でこれほど大規模に発達したビーチロックは極めて珍しく、長崎県指定天然記念物に指定されています。

この岩しょうは、せんたく板のような形をしているので、土地の人は「棚瀬」と呼んでいます。干潮時に露出した所で長辺約240m、短辺約100m、面積約24,000㎡という大規模なものです。年代測定から約6,000年前以降に形成されてきたことが知られています。

(長崎県指定天然記念物)



③ 高浜海水浴場 (高浜町)

延長800mの浜辺は遠浅で、子ども連れの家族にも最適な海水浴場です。目の前に軍艦島(端島)を眺望でき、沈む夕日の美しさには定評があります。ウミガメの産卵地としても知られており、環境省の「日本の水浴場88選」にも選ばれているほか、「日本の渚百選」の地でもあります。



④ 樺島の白戸の穴 (野母崎樺島町)

樺島の東海岸に海面を呑む天然の洞窟「白戸の穴」があります。白戸の穴クルージングも行われているほか、6洞の周辺はカツオドリのすみかとなっています。(見学には、船が必要です。)



⑤ 樺島 (野母崎樺島町)

野島の観察ポイントが多く、九州の渡り鳥のほとんどが見られます。ヤツガシラなど珍しい旅鳥も見られるため、バードウォッチング目当ての客が多く訪れます。



6 岩屋山(岩屋神社)[長崎市北部地区]

開山からの古い歴史がある山で、希少な動植物も多数見られます。市指定天然記念物である雄大なスギ群や長崎市を一望できる頂上からの景色など自然の美しさを堪能できる長崎市の誇る名山です。登山客からの人気も高く、休日はもとより、平日でもたくさんの登山客で賑わっています。



7 長崎市北浦町の恐竜化石群

平成23年(2011年)4月に、約8,100万年前の恐竜化石が発掘されました。その後の調査で見つかった化石は、鳥脚類の右大腿骨上半部でハドロサウルス科に属する可能性が高いことがわかりました。(本誌の裏表紙をご参照ください。)



8 黒崎永田湿地自然公園(永田町)

平成15年(2003年)に開園し県内でも有数の湿地公園として知られています。公園内には、ガマやヨシ類などの群落が広がり、ヘイケボタルやコフキヒメイトトンボなどの希少動植物が生息しています。また、園内には、健康遊具をはじめ木道も設置されており、自然とふれ合いながら散策することもできます。(本誌のP1~2も参考にご覧ください。)



9 深堀善長谷教会と一体となった海と高島の景観(大籠町)

深堀善長谷教会から高島方面を望むと、海原が広がり、世界遺産の端島等の姿がよく見えます。



10 大中尾棚田(神浦上大中尾町)

平成11年(1999年)7月に農林水産省が認定した「日本の棚田百選」に選ばれた大中尾棚田は、面積80,000㎡で田んぼの枚数は約450枚です。この棚田は、自然に囲まれたすばらしい景観をもち、四季折々に様々な表情を見せ、貯水や地滑り防止のほか、生態系の維持に大きな役割を果たしています。地域の方々が力を併せ、水路の維持補修に努め、毎年秋には黄金色に実った棚田米の収穫を迎えます。

天然記念物とは、

学術上価値の高い動物・植物・地質鉱物、およびそれらの存在する地域であり、文化財保護法によるほか、地方公共団体の条例によっても定められています。

長崎市のおもな景勝地



1 下大野町から角力灘の夕陽を望む

外海から遥かに広がる角力灘。その広大な海原に浮かぶ島々を絶妙に写しだしながら、真紅に染めて沈む夕陽の美しさは他に見られない情景です。



4 権現山(椿公園)〈野母町〉

標高198mの山頂は、江戸幕府の遠見番所が設けられたほど眺望がよく、東に天草灘、西に五島灘、南に東シナ海を一望できます。



7 鍋冠山から長崎港口を望む〈出雲2丁目〉

長崎港が一望でき、晴れた日には息をのむほどの青い空と海が広がり、特に点在する島々や女神大橋までのパノラマは最高です。



2 神浦川(神浦川河川公園)〈神浦向町〉

平成2年度、「日本一の清流」の一つに選定された神浦川は、全長9kmの2級河川で、外海地区が誇る美しい川として多くの人々に親しまれています。



5 式見町から神楽島を望む

昔、神功皇后(じんぐうこうごう)が神楽を舞ったことから、『神楽島』の名が付いたという言い伝えがあります。特に式見町からの眺めは絶景です。



8 権現山から軍艦島(端島)を望む〈野母町〉

軍艦島の通称で知られる端島は、海底炭坑によって栄え、昭和49年(1974年)の閉山にともなって島民が島を離れ無人島となりました。平成27年(2015年)7月に世界文化遺産に登録されました。



3 琴海赤水公園からの眺望〈琴海戸根原町〉

大村湾を眼下に望み、天気の良い日は普賢岳や大村方面までもが見渡せる絶景のポイントです。



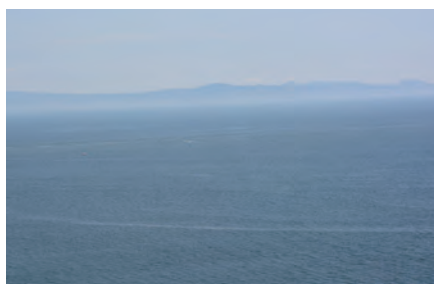
6 千畳敷〈伊王島町1丁目〉

幅10m、長さ50mほどの泥岩からなる海岸で畳の縁のような溝がある珍しい場所です。



9 伊王島町から大中瀬戸を望む〈伊王島町2丁目〉

伊王島大橋は、大中瀬戸で隔てられた伊王島町の沖之島と香焼町を結ぶ橋として、平成23年(2011年)3月に開通し、多くの利用者で賑わっています。

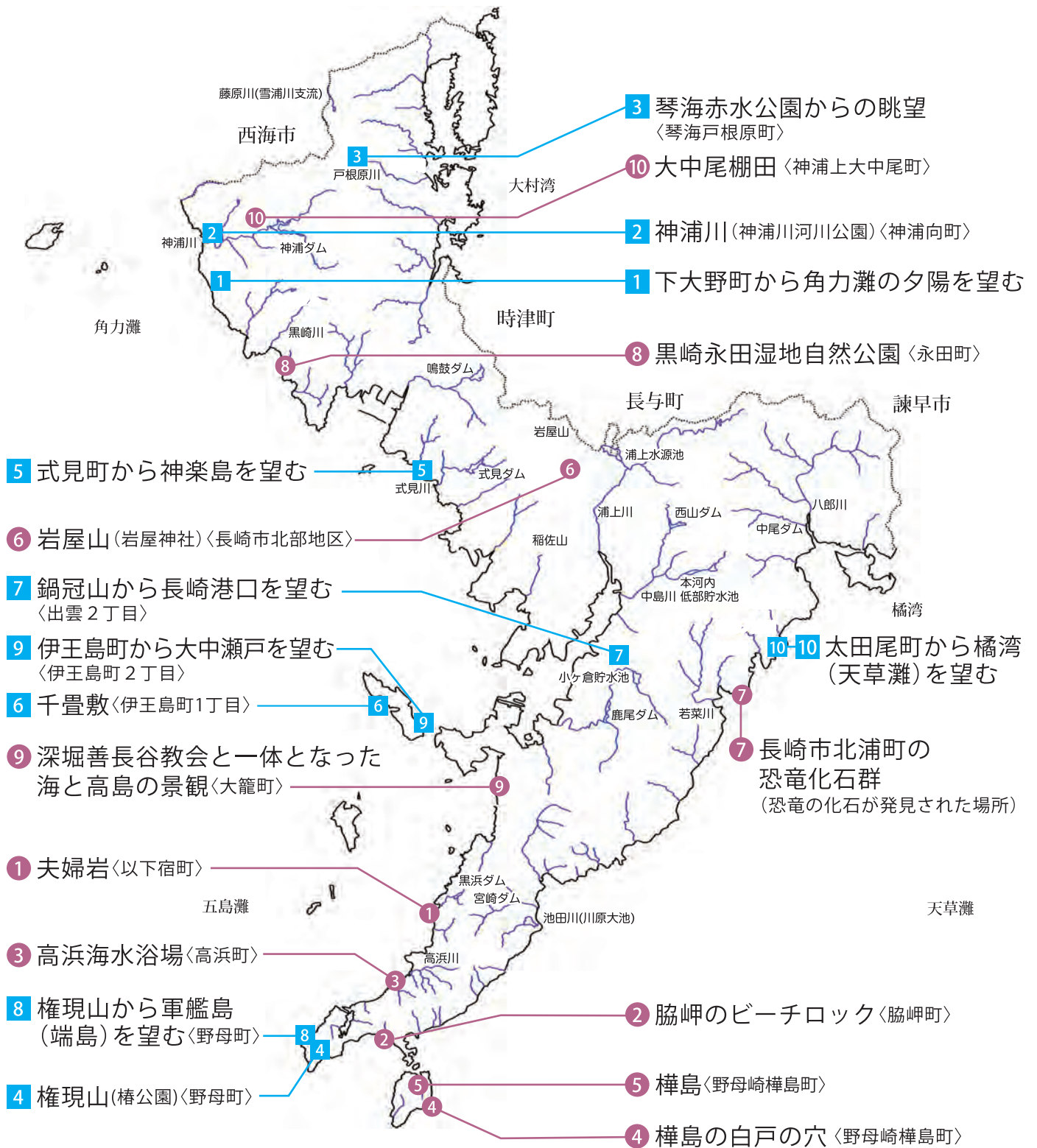


10 太田尾町から橘湾(天草灘)を望む

橘湾(たちばなわん)は、諫早市南岸と島原半島西岸に囲まれた湾で、南は天草灘とつながっています。地質学的にはカルデラ湾に属します。

※長崎市には、多くの景勝地がありますが、紙面の都合上、一部の景勝地のみを紹介しています。

ながさき いきもの自然百景 長崎市のおもな景勝地



ながさき いきもの自然百景 交通アクセス

※目的地までの概ねの経路・時間を示しています

地 域	長崎駅からの所要時間
① 夫婦岩〈以下宿町〉	・樺島行き、岬木場行きバスで約45分「以下宿バス停」下車後徒歩約1分 ・車で約40分(国道499号線)
② 脇岬のビーチロック〈脇岬町〉	・樺島行き、岬木場行きバスで約1時間05分「脇岬海水浴場バス停」下車後徒歩約1分 ・車で約50分(国道499号線)
③ 高浜海水浴場〈高浜町〉	・樺島行き、岬木場行きバスで約50分「高浜海水浴場前バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約45分(国道499号線)
④ 樺島の白戸の穴〈野母崎樺島町〉	・樺島行きバスで約1時間10分「水崎バス停」下車 (見学には、船が必要です。) ・車で約60分(国道499号線)(県道251号線)
⑤ 樺島〈野母崎樺島町〉	・樺島行きバスで約1時間10分「水崎バス停」下車 ・車で約60分(国道499号線)(県道251号線)
⑥ 岩屋山(岩屋神社)〈長崎市北部地区〉	・虹が丘行き、寺川内行きバスで約30分「虹が丘中央バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約15分(国道206号線)
⑦ 長崎市北浦町の恐竜化石群	・北浦行きバスで約30分「北浦バス停」下車後徒歩約15分 ・車で約20分(県道34号線)
⑧ 黒崎永田湿地自然公園〈永田町〉	・さくらの里ターミナル行き(終点乗り換え)→板の浦行きバスで約60分「永田浜バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約40分(国道202号線)
⑨ 深堀善長谷教会と一体となった海と高島の景観〈大籠町〉	・香焼恵里行き、深堀行きバスで約40分「深堀バス停」下車後徒歩約20分 ・車で約30分(県道224号線)
⑩ 大中尾棚田〈神浦上大中尾町〉	・さくらの里ターミナル行き(終点乗り換え)→板の浦行きバスで約1時間20分「神の浦橋バス停」下車後徒歩約30分 ・車で約60分(国道202号線)

長崎市のおもな景勝地 交通アクセス

※目的地までの概ねの経路・時間を示しています

地 域	長崎駅からの所要時間
① 下大野町から角力灘の夕陽を望む	・さくらの里ターミナル行き(終点乗り換え)→板の浦行きバスで約1時間15分「大野バス停」下車 ・車で約50分(国道202号線)
② 神浦川(神浦川河川公園)〈神浦向町〉	・さくらの里ターミナル行き(終点乗り換え)→板の浦行きバスで約1時間20分「神の浦橋バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約60分(国道202号線)
③ 琴海赤水公園からの眺望〈琴海戸根原町〉	・大串行き、長浦行き、亀浦行きバスで約60分「明誠高校バス停」下車後タクシーで約15分 ・車で約60分(県道204号線)
④ 権現山(椿公園)〈野母町〉	・樺島行き、岬木場行きバスで約60分「野母新港バス停」下車後徒歩約30分 ・車で約50分(国道499号線)(県道34号線)
⑤ 式見町から神楽島を望む	・相川行きバスで約45分「中尾バス停」下車 ・車で約30分(国道202号線)
⑥ 千畳敷〈伊王島町1丁目〉	・伊王島ターミナル行きバスで約60分、終点から徒歩約20分 ・大波止港から伊王島・高島間運行の高速船「コバルトクイーン」で伊王島港まで約20分下船後徒歩約20分 ・車で約35分(県道250号線)(県道118号線)
⑦ 鍋冠山から長崎港口を望む〈出雲2丁目〉	・二本松団地行き長崎バスうみかぜで約25分「二本松団地バス停」下車後徒歩約15分 ・車で約10分(国道499号線)(県道237号線)
⑧ 権現山から軍艦島(端島)を望む〈野母町〉	・樺島行き、岬木場行きバスで約60分「野母新港バス停」下車後徒歩約30分 ・車で約50分(国道499号線)(県道34号線)
⑨ 伊王島町から大中瀬戸を望む〈伊王島町2丁目〉	・伊王島ターミナル行きバスで約60分「馬込浜バス停」下車後徒歩約3分 ・大波止港から伊王島・高島間運行の高速船「コバルトクイーン」で伊王島港まで約20分下船後徒歩約10分 ・車で約30分(県道250号線)(県道118号線)
⑩ 太田尾町から橘湾(天草灘)望む	・飯香浦行きバスで約40分「太田尾バス停」下車 ・車で約30分(県道34号線)

私たちが守ろういきものたち

[植物1]

平成24年2月に公表された長崎市レッドリストの中から主なものを掲載しています。



ヒモヅル

つる性で木によじ登る珍しい生態をしたヒカゲノカズラの仲間です。長崎県内では、西彼杵半島に多く生育しています。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



デンジソウ

水田や湿地に生育するシダ植物で根茎は長く這い、所々に葉をつけます。小葉は、4枚で田の字に似ていることから名づけられています。最近、除草剤等によって少なくなっています。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



ヘゴ

亜熱帯性の木性シダで、長崎県内では古くから五島市で知られており、長崎市内でも2カ所で生育しています。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



リュウビンタイ

亜熱帯性の大型のシダで、ヘゴとともに五島市に古くから知られており、長崎市市内にも群生地が発見されています。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



ハナビスゲ

南方系の大型のスゲで、谷沿いの林縁部に生育しています。長崎県は分布の北限で、琴海地区には、日本で最も多く生育しています。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



オオクグ

多年草で沿岸部の湿地や海跡湖岸に生育しています。国内では、北海道、本州と九州北部に分布し、長崎県は分布の南限にあたります。長崎市では、川原大池に生育しています。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



エビネ

林床に生育する常緑の多年草で、春に花穂を出し、赤褐色の花を咲かせます。かつては、多く生育していましたが、盗掘等により少なくなっています。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



キエビネ

林床に生育する常緑の多年草で、春に花穂を出し、あざやかな黄色の花を咲かせます。近年では、盗掘等により少なくなっています。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



カキラン

湿地や山地のやや湿った草地に生育する多年草で、茎の基部は紫色を帯びています。初夏に花穂を出し、柿色の小さい花を10個ほど咲かせます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)

長崎市レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物種のリスト)

カテゴリ区分は、絶滅の危険性が高い順に①絶滅(EX) ②野生絶滅(EW) ③絶滅危惧ⅠA類(CR) ④絶滅危惧ⅠB類(EN) ⑤絶滅危惧Ⅱ類(VU) ⑥準絶滅危惧(NT) ⑦情報不足(DD)に区分しています。



ナギラン

照葉樹林の林床に生育する多年草で、2～4枚の厚い葉をつけています。初夏に淡紫色を帯びた白色の花を少数咲かせます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ナガサキギボウシ

林内のやや湿った岩上などに生育する多年草で、9月に花穂を出し多数の薄紫色の花を咲かせます。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



コキンバイザサ

山地の草原に生育する多年草で、葉は細く狭線形をしています。夏に茎の根元に黄色の小さな花を咲かせます。
※市準絶滅危惧(NT)



アケボノアオイ

林床に生育する多年草で、茎は短く節があり、4月頃に根本に花を咲かせます。また、花被片は3枚で花筒より長くなっています。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



ハマボウ

内湾の岸や河口付近に生育する落葉低木で、7月に黄色の美しい花を咲かせます。また、埋立てや護岸工事などによって少なくなっています。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ツクシスミレ

林床や林縁部に生育し、長崎県内では、長崎市の東南部のみに見られます。葉はへら状で基部は翼状となり、春に淡紅色の小さな花を咲かせます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ハマサジ

塩湿地に生育する多年草で、葉は根生し、長いさじ形となっています。夏から秋に分岐した花茎を伸ばし、小さな花を多数咲かせます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



コバンムグラ

山地の道端に生育する多年草で、茎は分岐し、長さ約10cm以上に伸びます。和名は、この葉の形を小判に見立てたもので、初夏から秋にかけて小さな白色の花を葉腋につけます。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



ハマボウフウ

海浜の砂地に生育する多年草で、主根は深く地中に伸びます。初夏に短い傘形花序を伸ばし、白色の小さな花を咲かせます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



カスミサンショウウオ

体長15cmほどで里山にすみ、冬期に水田や池に産卵します。卵塊は巻いたバナナ状で内部に100個前後の卵を含んでいます。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ニホンアカガエル

体長5cmほどで赤銅色のスマートな体型となっています。里山にすみ冬期に山際の水田や湿地に産卵します。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



カジカガエル

鳴き声の美しさが有名で、6月初旬に河川の石の下に産卵します。長崎市内では、出津川と神浦川の2河川に生息しています。
※市準絶滅危惧(NT)



アカウミガメ

長崎県本土で産卵する唯一のウミガメで、幼体は太平洋を回遊し、やがて生まれた場所に戻って産卵します。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



ニシヤモリ

五島灘周辺の海岸域に生息するヤモリ的一种です。人家に多いニホンヤモリに圧倒され、長崎県本土では西彼杵半島の一部しか分布していません。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



アオダイショウ

人家周辺にも見られ、ネズミや小鳥を捕食する大型のへびで、従来は「ねずみとり(ぐちなわ)」と呼ばれていました。
※市準絶滅危惧(NT)



キクガシラコウモリ

洞窟や廃墟を利用する大型のコウモリで、翼を広げると約30cmにもなります。昼間は、褐色の翼を体に巻きつけて休んでいます。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



カヤネズミ

世界最小のネズミでススキやチガヤ(カヤと呼ぶ)の葉を利用して巣をつくり子育てをします。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



キツネ

長崎市内にも生息していますが、その姿を見ることは、ほとんどありません。茶褐色の毛並みとふさふさとした長いしっぽが特徴です。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



オシドリ

長崎県の県鳥として指定されているカモの仲間で、冬鳥として長崎市内のダムに毎年多く渡って来ます。雄はカモ類の中でも最も派手な色彩をしています。冬鳥
※市情報不足(D D)



アマサギ

シラサギの仲間では最も小型です。名前の由来は、繁殖期に頭から胸にかけて黄褐色の飴色に羽の色が変化することによりアマサギと名づけられています。夏鳥



ヒクイナ

小型のクイナの仲間で、長崎市で一年間を通して観察される留鳥と春に南方から渡来して繁殖する夏鳥のグループに分けられ、湿地や水田で見られます。留鳥・夏鳥
※市準絶滅危惧(NT)



アオバズク

小型のフクロウの仲間で、夏鳥として渡来繁殖しています。長崎市内では営巣に適した場所が少ないため、数カ所の神社などで繁殖がみられています。夏鳥
※市絶滅危惧 I A類(CR)



カワセミ

長崎市では、カワセミの営巣が出来る粘度質斜面のある河川がないため、数は少ないようですが、比較的水量のある浦上川中流部や八郎川中流部では周年見られています。留鳥



ブッポウソウ

長崎市を毎年通過している緑色と赤いくちばしの目立つ中型の野鳥で春5月の記録が圧倒的に多いようですが、秋の渡りでもしばしばみられています。旅鳥
※市絶滅危惧 I B類(EN)



ヤツガシラ

長崎市を代表する旅鳥で春は渡りの先駆けとして、毎年3月中旬から4月上旬に長崎市南部の野母崎樺島町で見られています。旅鳥
※市準絶滅危惧(NT)



サンコウチョウ

雄は非常に長い尾羽を持ち、目の周りとかちばしがコバルト色で頭から背中中は全体に黒っぽく暗い森では目立たない保護色となっています。長崎市では数少ない旅鳥でしたが、一部で繁殖が確認されています。夏鳥
※市絶滅危惧 II類(VU)



オオルリ

日本三鳴鳥(ウグイス・コマドリ・オオルリ)の中でも一番体が大ききさえずりも複雑で声量もあります。長崎市では、かつては旅鳥として繁殖は確認できていませんでしたが、近年では、溪流沿いの山地で夏鳥として繁殖が見られるようになってきました。夏鳥



ナガサキアゲハ

成虫は6月～10月に見られ、大きさはアゲハチョウの仲間では最大級で前翅の付け根に赤い斑紋があります。雌は、後翅に白斑と橙赤色の紋があり、雄は全体が黒青色となっています。



ヤマトタマムシ

成虫は6月～9月に見られ、日本を代表する美麗種で、緑色に青紫の縞模様と全体に光沢があります。長崎市内では、タマムシが好むエノキが減少しており、本種をあまり見かけなくなっています。
※市準絶滅危惧(NT)



オニヤンマ

成虫は6月～9月に見られ、日本最大のトンボで体全体に黒色地に黄色の縞模様があります。左右の複眼は、緑色で頭部中央で一部が接しています。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ゲンジボタル

成虫は5月中旬頃から里山や低地の清流で見られ、体は黒褐色で前胸背部は赤色で十字型の黒色模様があります。卵は水辺のコケなどに産み付けられ、幼虫はカワニナを食べながら成長します。
※市準絶滅危惧(NT)



ヒラタクワガタ

成虫は5月～10月に見られ、大型個体の体長は70mmを超え、木の穴に住み、クヌギなどの樹液をなめます。幼虫はクヌギ、シイ、カシなどの湿気が少ない大きな立ち枯れを好みます。
※市準絶滅危惧(NT)



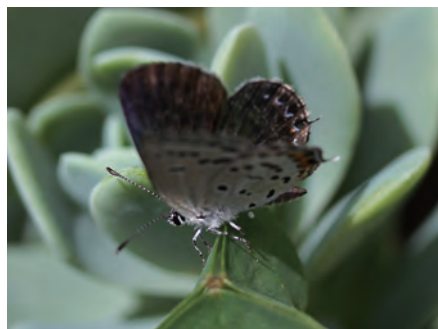
ハッチョウトンボ

成虫は、丘陵地にある湿地や休耕地で5月～9月に見られ、体長12mm程度で10円硬貨より小さく、世界最小のトンボです。成熟すると雄は赤色、雌は褐色に黒と黄色の縞模様となります。生息地は局所的です。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



イシイムシ

2～3cmの原始的な昆虫でガロアムシ科に属し、山中のガレ場の地下に生息しています。長崎市で約80年ぶりに再発見されています。画像は多良岳産の本科の幼虫です。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



クロツバメシジミ

成虫は4月～10月にかけて発生し、後翅の白い縁取りのある黒点と細く小さい尾状突起が特徴的です。幼虫はイワレンゲ、ツメレンゲ、タイトゴメなどの葉を食べ、近年、海岸の整備や宅地開発などで食草が失われ、生息域が局所的になっています。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



スミナガシ

成虫は5月～8月に見られ、前・後翅とも青緑と灰黒色の地に白い斑紋が散らばり、クヌギなどの樹液を吸って生活しています。また、幼虫はアワブキ、ヤマビワなどの葉を食べて成長します。
※市準絶滅危惧(NT)



タカハヤ

全長20cmほどになり、主に河川上流部の石などの物陰に生息しています。触るとヌメリがあり捕まえにくい魚です。
※市準絶滅危惧(NT)



ミナミメダカ

メダカとされていた中に最近2種類いることが明らかとなり、長崎市に生息するのはミナミメダカという種類です。市内でも野生のものは少ないようです。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



シロウオ

春に川へ遡ってくる5cmほどのハゼの仲間です。県内各地で四手網による漁がなされています。長崎市内でも約半数の川で遡上が確認されています。
※市準絶滅危惧(NT)



ヤマトヌマエビ

4cmほどになるヌマエビの仲間です。主に川の上流部の落葉などが堆積した場所を好みます。幼生は海で育つため、夜間、川を遡ってゆく姿をみることがあります。
※市準絶滅危惧(NT)



ハクセンシオマネキ

川の河口部にできる砂礫質の干潟に穴を掘って生息しています。雄の片方の白いハサミが大きく、特徴的です。
※市絶滅危惧Ⅱ類(VU)



ヒメカノコ

1cmほどの小型の巻貝で主に河口の砂泥干潟に生息し、大村湾に面する場所では確認されていません。殻の模様は様々で、きれいな個体が多いです。
※市絶滅危惧ⅠB類(EN)



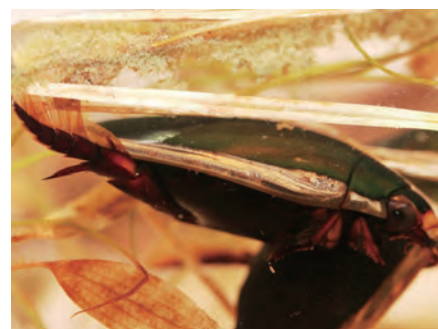
オカミミガイ

3cmほどの巻貝でヨシや塩性植物が生育する満潮線付近の干潟に生息しています。石の下や枯れた植物の下を好みます。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



コオイムシ

2cmほどの水生カメムシの仲間です。主に溜池などに生息し、小動物を捕食します。雄の背中に雌が産卵し、孵化するまで雄が保護する習性があります。
※市絶滅危惧ⅠA類(CR)



コガタノゲンゴロウ

3cmほどの大型のゲンゴロウで植物が豊富な溜池などに生息し、小動物を捕食しながら成長します。以前は、ほとんど見かけることがなかったのですが、最近、増えつつあるようです。長崎県の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に属しています。

身近な生態系が危ない ～外来種、知ってますか？～

【植 物】



オオカナダモ

池や川に生育する水草で繁殖力が強く、在来の水草を駆逐します。生態系被害防止外来種リストにあげられており生態系への悪影響が懸念されます。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



ナルトサワギク

造成地や荒地に生育する多年草で、ほぼ一年中開花し、種子で繁殖します。最近になって、多く見られるようになっていきました。特定外来生物で運搬・栽培・保管などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-2



セイトカアワダチソウ

高さ2m以上にも成長する多年草で、乾いたところから湿った所にも生育することができ、在来種との競争に強く繁殖力も旺盛です。生態系被害防止外来種リストにあげられており生態系への悪影響が懸念されます。

※市カテゴリー；国外外来種A-1

【水生生物】



トウネズミモチ

緑化のために植えられたものですが、果実は鳥によって食べられ、周辺の林に散布され拡大しています。生態系被害防止外来種リストにあげられており生態系への悪影響が懸念されます。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



オオバアメリカアサガオ
(イリオモテアサガオ)

園芸用に導入されたもので、種子はできませんが、つるを捨てるとそこから発根し繁殖します。自然の群落にも侵入し、駆除するのは難しいようです。

※市カテゴリー；国外外来種A-2



オオクチバス

50cmを超えるアメリカ原産の淡水魚で主にダムや溜池などに生息しています。特定外来生物で運搬・飼養などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



ブルーギル

20cmほどになるアメリカ原産の淡水魚で主にダムや溜池などに生息し、小動物を捕食しています。特定外来生物で運搬・飼養などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



カダヤシ

3cmほどになるアメリカ原産の淡水魚でメダカに一見似ていますが、ヒレの形などが異なります。特定外来生物で運搬・飼養などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



アメリカザリガニ

長崎県内に生息するザリガニは、この種類のみです。場所によっては大量に発生しており、トンボやホタルが飛ばなくなるなど、その影響がでています。生態系被害防止外来種リストにあげられており生態系への悪影響が懸念されます。

※市カテゴリー；国外外来種A-1

《外来種被害予防三原則》

1 入れない 2 捨てない 3 拡げない

※長崎市の外来種リストでは、「国外外来種」、「国内外来種」、「検討を要する外来種」の3つに区分し、カテゴリー区分を 影響度が大きい順に①A-1 ②A-2 ③A-3 ④B-1 ⑤B-2としています。

身近な生態系が危ない ～外来種、知ってますか？～

【両生類・爬虫類・哺乳類】



ウシガエル(両生類)

アメリカから食用として人為的に持ち込まれ、大きさは20cm近くになり、国内では最大級のカエルです。大きい割には動きが敏捷で警戒心も強く、捕獲には一苦労します。特定外来生物で運搬・飼養などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



ミシシッピアカミミガメ(爬虫類)

幼体は、ミドリガメの商品名で縁日などで販売されています。飼育されていたものが、河川等に放逐されたことにより、元々日本にいたカメが駆逐されています。生態系被害防止外来種リストにあげられており生態系への悪影響が懸念されます。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



アライグマ(哺乳類)

ペットとして飼育されていた個体が野外に放逐され、長崎県内では増加の一途をたどっています。特に県北を中心に農業被害が増加しています。特定外来生物で運搬・飼養などが原則禁止されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-3

【昆虫類】



ヤシオオオサゾウムシ

成虫は、体長4cm程度で台湾と東南アジアに広く分布し、国内では沖縄県で最初に確認され、長崎市においても約80本のカナリーヤシが幼虫に食害され枯れています。その後、本種の侵入は確認されていませんが、注意が必要です。

※市カテゴリー；国外外来種A-2



クロマダラソテツジミ

前翅長15mm前後で、幼虫はソテツの新芽や若葉を食害します。長崎県内では、平成19年(2007年)に確認され、毎年発生しています。近年では、九州各地、四国、本州でも発見が相次いでいます。

※市カテゴリー；国外外来種A-2



アルファルファタコゾウムシ

成虫は、体長5mm前後で昭和62年(1987年)に長崎県内で確認され、現在では、九州、四国、中国地方の多くの県で発生が確認されています。幼虫は、マメ科の植物を好んで食害します。特に、レンゲの花が咲く前に食害することから、養蜂や稲作への被害が出ています。

※市カテゴリー；国外外来種A-2

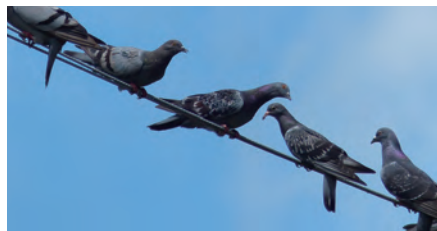
【鳥類】



ソウシチョウ

本州中部以南で急速に分布を広げている特定外来種です。繁殖力が強く、長崎県でも標高の高い雲仙山系、多良山系、国見山系などで急速に分布を広げています。長崎市市内でも平成27年(2015年)に確認されており、影響が懸念されます。

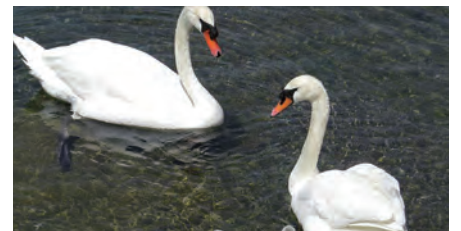
※市カテゴリー；検討を要する外来種



カワラバト(ドバト)

日本への侵入は、古く大和、飛鳥時代に移入したとされます。明治以降伝書鳩が野生化して増え、糞害により公園や多くの建造物等への被害が問題となっています。

※市カテゴリー；国外外来種A-1



コブハクチョウ

国内で意図的に放鳥された個体が繁殖し、現在では北海道から本州のほぼ全域で少数の個体群が繁殖しています。長崎市市内でも旧外海町で毎年繁殖が確認されています。

※市カテゴリー；国外外来種A-3

(※)・特定外来生物；人の生命や身体、生態系、農林水産業など、特に被害を与える恐れがある生物を外来生物法に基づき環境省が指定しているもの。
・生態系被害防止外来種リスト；侵略性が高く、我が国の生態系、人の生命・身体、農林水産に被害を及ぼす又はそのおそれがある外来種を選定し、規制対象以外の外来種や国内由来の外来種等も対象としている。

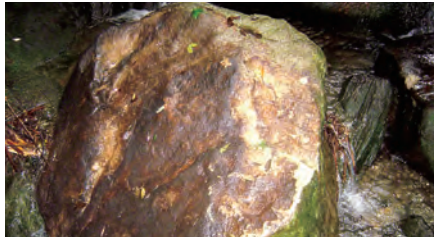
自然・歴史・天然記念物



① 琴海のカネコシダ群落

きんかいのかねこしだぐんらく

正月に用いるウラジロに似ていますが葉の裏が白くないことなどが特徴で、西彼杵半島の数カ所に産地が見つかっています。(長崎県指定天然記念物)



② 戸根溪谷ヒスイ

とねけいこくひすい

透明で深緑色のものは、古来、東洋では第一級の宝石として珍重されてきました。戸根溪谷のヒスイは、輝石岩中に石英の含有分が多く、地質学的には大変珍しいものです。(長崎市指定天然記念物)



③ 長崎市外海の石積集落景観

ながさきしそとめのいしづみしゅうらくけいかん

結晶片岩(けっしょうへんがん)を主とする独特の地質で生活生業に関連した多種多様な石積構造物が数多く残されています。(国選定重要文化的景観)



④ 滑石大神宮社叢

なめしだいじんぐうしゃそう

この神社は、もと大村藩滑石の氏神として由緒も深く、社叢は、小高い丘を覆い、かなり広く社殿を中心に周囲に広がり、美しい社叢で風致上また学術上にも価値が高いものです。(長崎市指定天然記念物)



⑤ 岩屋神社のスギ群

いわやじんじやのすぎぐん

岩屋神社は岩屋山のふもとにあって、社叢は広く深く、奥は岩屋山の森林へとつながっています。指定のスギ群は、浅い溪谷に沿って境内に18本あり見事です。(長崎市指定天然記念物)



⑥ 式見のエノキ

しきみのえのき

樹高17m、幹回りは5.8mあり、高さ1.7mのところから幹は3つに分かれ、樹齢300年以上と推定されます。式見小学校内に存在します。(長崎市指定天然記念物)



⑦ 野島樹叢

のじまじゅそう

小江の沖合にある周囲700m、高さ50mほどの小島でしたが、現在は埋め立てられ、陸地の丘となっています。林内のハカマズラは、県内でも貴重な植物です。(長崎市指定天然記念物)



⑧ 山王神社の大クス

さんのうじんじやのおおくす

境内入口の2本のクスノキは、胸高幹囲が8.2mと6mであり、巨樹として、また、原爆の生き残りの樹木として意義が深いものです。(長崎市指定天然記念物)



⑨ 松森神社のクスノキ群

まつのもりじんじやのくすのきぐん

松森神社周辺の境内には、7本のクスノキが点在し、樹高20~25m、胸高幹囲は大きい樹木で7.8mもあります。いずれも樹勢がよく、美しい樹冠をつくっています。(長崎市指定天然記念物)



⑩ 西山神社の寒桜

にしやまじんじやのかんざくら

胸高幹囲1m、樹高7mで明治30年(1897年)に植樹された記録があります。この寒桜は開花が早く、1月上旬に開花し、2月上旬には終わります。(長崎市指定天然記念物)



⑪ 長崎公園の トックリノキ

ながさきこうえんのとっくりのき

昭和7年(1932年)に上海から長崎へ運ばれたもので、トックリノキとしては日本に持ち込まれた中で最も古いものです。(長崎市指定天然記念物)



12 デジマノキ

でじまのき

樹高10m、胸高幹囲1.2mあり幕末の頃オランダ人によって、ジャカルタ地方から持ち込んだ幼木が育ったもので、日蘭修交の歴史を語る貴重な記念樹です。(長崎県指定天然記念物)



13 キイレツチトリモチ自生北限地

きいれつちとりもちせいほくげんち

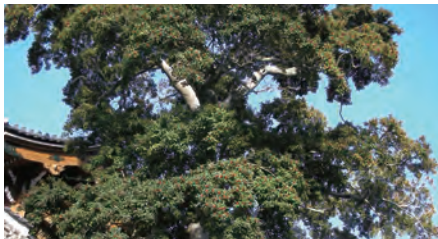
ツチトリモチ科の寄生植物で、塊状の地下茎でトベラやシャリンバイなどの樹木の根に寄生します。指定地は、本河内水源池の北側に広がる水源かん養林内です。(国指定天然記念物)



14 大音寺のイチョウ

だいおんじのいちょう

大音寺本堂裏の墓地にあり、胸高幹囲3.9m、樹高20mほどで地上6mほどから5本の支幹に分かれ、雄大な樹形をつくっています。樹齢は300年以上とされています。(長崎市指定天然記念物)



15 大音寺のクロガネモチ

だいおんじのくろがねモチ

胸高幹囲2.6m、樹高15mでクロガネモチとしては極限に近く、雌株であることから真紅のつづらな小果が密集して美しく人目をひきます。(長崎市指定天然記念物)



16 観善寺の大クス

かんぜんじのおおくす

胸高幹囲8m、樹高20mで市内にあるクスノキの巨樹のひとつです。樹勢も旺盛で豊かに枝葉を茂らせています。(長崎市指定天然記念物)



17 大徳寺の大クス

だいとくじのおおくす

大徳寺の大クスは有名で樹齢は推定800年前後、根回りは23.4m、胸高幹囲12.6mで県下有数のクスの巨木です。(長崎県指定天然記念物)



18 矢上八幡神社の大クス

やがみはちまんじんじゃのおおくす

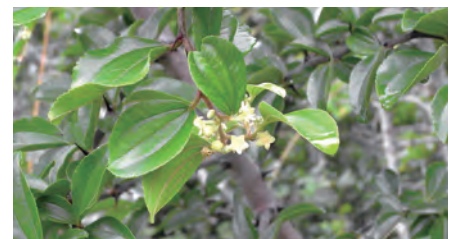
神社境内にある2本のクスノキは、南側のものが胸高幹囲5.3m、北側のものが10.2mと県下有数の巨木で両木ともに樹勢は旺盛です。(長崎市指定天然記念物)



19 滝の観音

たきのかんのん

寺院の背後には一条の滝があり、随所に異国風な石像が配置され、古来文人墨客の杖を引いた名勝地です。(長崎県指定名勝)



20 牧島のハマナツメ群落

まきしまのはまなつめぐんらく

日本南部の海岸塩湿地周辺に生育する比較的可憐な植物です。汀線から内陸部への带状構造が発達している点も価値が高く保全の必要があります。(長崎市指定天然記念物)



21 網場天満神社の社叢

あばてまんじんじゃのしゃそう

網場の海岸沿いの小高い丘の上にあり、丘全体が境内で社叢ともなっています。特別に貴重な種類、巨木はありませんが、沿海地の照葉樹林の社叢としても保存すべきものです。(長崎市指定天然記念物)



22 太田尾の大クス

おたおのおおくす

樹高およそ20m、胸高幹囲が5.8mで三大支幹に分かれています。第一級の巨樹ではありませんが、雑木林内にあるところにも意義があります。(長崎市指定天然記念物)



23 茂木植物化石層

もぎしよくぶつかせきそう

植物化石は31科40属52種が識別されており、その大部分はブナ・ケヤキなどです。日本の新生代植物化石の最初の記録となっており、国際的にも有名です。(長崎県指定天然記念物)



24 宮摺山ン神の社叢

みやずりやまなかみのしゃそう

山ン神とは、文字通り山を守り、山をつかさどる神で祭神は大山祇(づみ)神です。土地の人たちは、社叢の樹木の一つ一つに神霊が宿るとして大切にしています。(長崎市指定天然記念物)



25 豊前坊社のエノキ

ふぜんぼうしゃのえのき

樹高約20m、根回り約4mで樹齢約200年と推定され、神木のように大切にされています。エノキとしては、まれに見る巨木です。(長崎市指定天然記念物)



26 岩立神社のエノキ

いわたてじんじやのえのき

境内で最古木といわれるエノキは、樹齢約200年、樹高約20m、根回り約4mで樹勢も旺盛で、枝張りも立派です。(長崎市指定天然記念物)



27 深堀陣屋跡のアコウ

ふかほりじんやあとのあこう

胸高幹囲6.9m、樹高20mで美しい樹形をつくっています。また、五島列島には、巨木のアコウが多く、国の天然記念物に指定されたものもあります。(長崎市指定天然記念物)



28 竈神社の大クス

かまどじんじやのおおくす

樹齢350年以上で樹高約25m、幹囲10.5mの本県屈指のクスの巨樹です。四方に多数の大枝・小枝を出し樹冠は雄大です。また、樹勢も旺盛で力強さを感じます。(長崎市指定天然記念物)



29 藤田尾のヤブツバキ

とうだおのやぶつばき

樹齢約300年、樹高11.2m、根回り2.8mで、地上約2mのところから大枝を出し、樹勢は極めて旺盛です。この地域の中では、最大のもです。(長崎市指定天然記念物)



30 川原住吉神社のクスノキ

かわはらすみよしじんじやのくすのき

神社の境内に樹齢約500年の巨木が存在し、目通り幹囲5.8m、樹高約26mを測り、樹形、樹勢とも優れています。(長崎市指定天然記念物)



31 川原大池樹林

かわはらおおいけじゅりん

川原大池は、長崎半島の千々石湾側の海岸にあり、この大池と海を隔てる自然堤防の上に広がる樹林が指定地となっています。(長崎県指定天然記念物)



32 オオウナギ生息地

おおうなぎせいそくち

オオウナギはウナギ科に属する熱帯性の魚で、生息地の井戸が大正12年(1923年)に国の天然記念物に指定されました。(国指定天然記念物)

① 琴海のカネコシダ群落
(琴海形上町)

② 戸根溪谷ヒスイ
(琴海戸根町)

③ 長崎市外海の石積集落景観
(東出津町・西出津町の全域、新牧野町の一部)

④ 滑石大神宮社叢
(滑石6丁目)

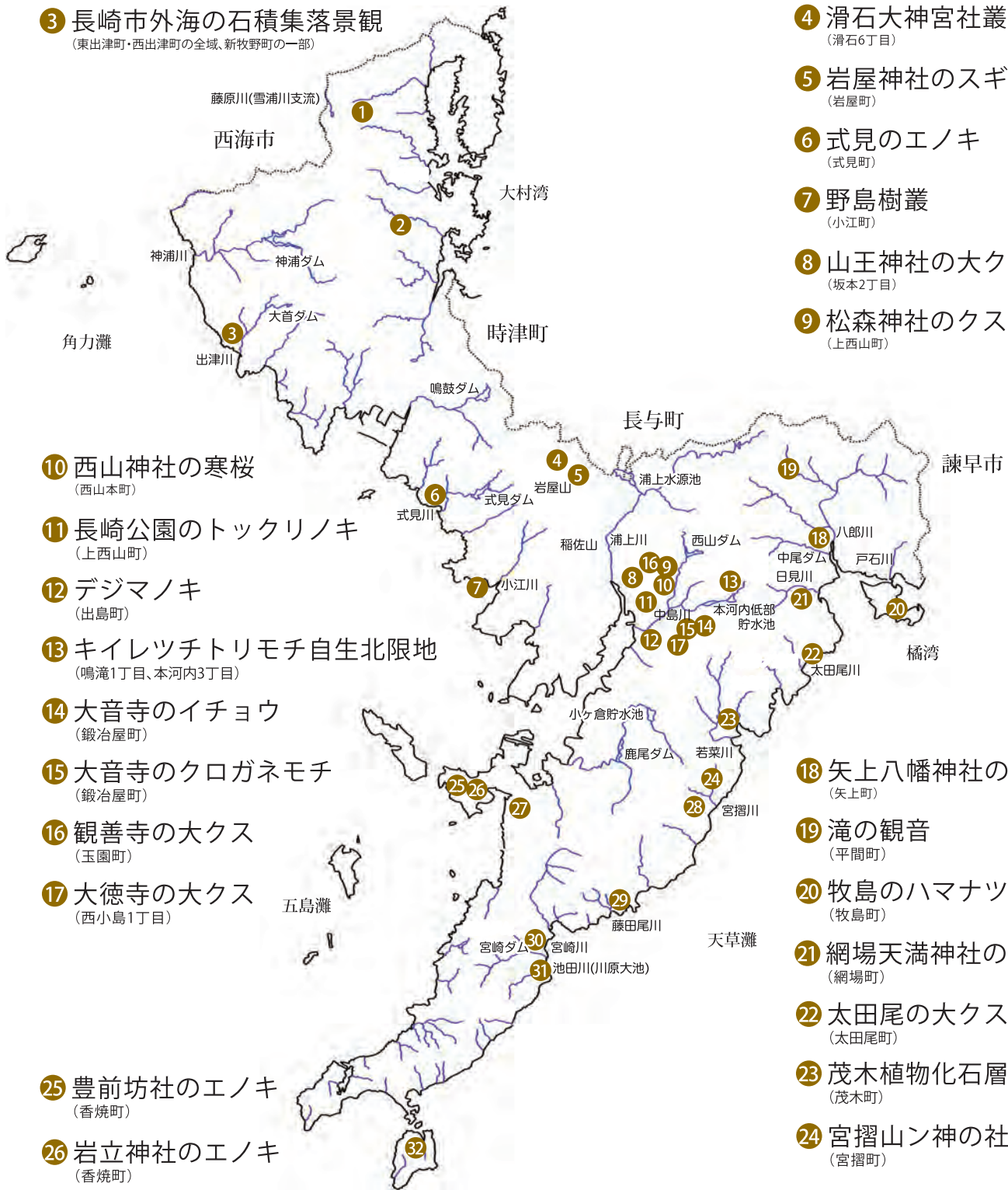
⑤ 岩屋神社のスギ群
(岩屋町)

⑥ 式見のエノキ
(式見町)

⑦ 野島樹叢
(小江町)

⑧ 山王神社の大クス
(坂本2丁目)

⑨ 松森神社のクスノキ群
(上西山町)



⑩ 西山神社の寒桜
(西山本町)

⑪ 長崎公園のトックリノキ
(上西山町)

⑫ デジマノキ
(出島町)

⑬ キイレツチトリモチ自生北限地
(鳴滝1丁目、本河内3丁目)

⑭ 大音寺のイチヨウ
(鍛冶屋町)

⑮ 大音寺のクロガネモチ
(鍛冶屋町)

⑯ 観善寺の大クス
(玉園町)

⑰ 大徳寺の大クス
(西小島1丁目)

⑱ 矢上八幡神社の大クス
(矢上町)

⑲ 滝の観音
(平間町)

⑳ 牧島のハマナツメ群落
(牧島町)

㉑ 網場天満神社の社叢
(網場町)

㉒ 太田尾の大クス
(太田尾町)

㉓ 茂木植物化石層
(茂木町)

㉔ 宮摺山ン神の社叢
(宮摺町)

㉕ 豊前坊社のエノキ
(香焼町)

㉖ 岩立神社のエノキ
(香焼町)

㉗ 深堀陣屋跡のアコウ
(深堀町5丁目)

㉘ 竈神社の大クス
(宮摺町)

㉙ 藤田尾のヤブツバキ
(藤田尾町)

㉚ 川原住吉神社のクスノキ
(川原町)

㉛ 川原大池樹林
(宮崎町)

㉜ オオウナギ生息地
(野母崎樺島町)

地域	長崎駅からの所要時間
① 琴海のカネコシダ群落(琴海形上町)	・車で約60分(県道57号線)
② 戸根溪谷ヒスイ(琴海戸根町)	・大串行き、長浦行き、亀浦行きバスで約50分「戸根橋バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約40分(国道206号線)
③ 長崎市外海の石積集落景観(東出津町・西出津町の全域、新牧野町の一部)	・さくらの里ターミナル(終点乗り換え) 板の浦行きバスで約1時間10分「出津文化村バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約60分(国道202号線)
④ 滑石大神宮社叢(滑石6丁目)	・上床行きバスで約40分「大園小学校前バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約30分(県道28号線)
⑤ 岩屋神社のスギ群(岩屋町)	・虹が丘行き、寺川内行きバスで約30分「虹が丘中央バス停」下車後徒歩約20分 ・車で約20分(国道206号線)
⑥ 式見のエノキ(式見町)	・相川行きバスで約45分「式見支所前バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約30分(国道202号線)
⑦ 野島樹叢(小江町)	・柿泊行きバスで約30分「小江小浦バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約20分(国道202号線)
⑧ 山王神社の大クス(坂本2丁目)	・赤迫行き電車で約10分「大学病院前電停」下車後徒歩約10分 ・車で約10分(国道206号線)
⑨ 松森神社のクスノキ群(上西山町)	・蛍茶屋行き電車で約5分「諏訪神社前電停」下車後徒歩約5分 ・車で約10分(国道34号線)
⑩ 西山神社の寒桜(西山本町)	・蛍茶屋行き電車で約5分「諏訪神社前電停」下車後徒歩約10分 ・車で約10分(県道235号線)
⑪ 長崎公園のトックリノキ(上西山町)	・蛍茶屋行き電車で約5分「諏訪神社前電停」下車後徒歩約10分 ・車で約10分(国道34号線)
⑫ デジマノキ(出島町)	・正覚寺行き電車で約5分「出島電停」下車後徒歩5分 ・車で約5分(国道499号線)
⑬ キイレツチトリモチ自生北限地(鳴滝1丁目、本河内3丁目)	・蛍茶屋行き電車で約10分「新中川町電停」下車後徒歩約30分 ・車で約10分(国道34号線)
⑭ 大音寺のイチヨウ(鍛冶屋町)	・正覚寺行き電車で約10分「正覚寺下電停」下車後徒歩約5分 ・車で約10分(国道34号線)
⑮ 大音寺のクロガネモチ(鍛冶屋町)	・正覚寺行き電車で約10分「正覚寺下電停」下車後徒歩約5分 ・車で約10分(国道34号線)
⑯ 観善寺の大クス(玉園町)	・蛍茶屋行き電車で約2分「桜町電停」下車後徒歩約5分 ・車で約5分(県道235号線)
⑰ 大徳寺の大クス(西小島1丁目)	・正覚寺行き電車で約10分「思案橋電停」下車後徒歩約10分 ・車で約10分(国道324号線)
⑱ 矢上八幡神社の大クス(矢上町)	・諫早駅行き、東厚生町方面行き県営バスで約40分「矢上バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約25分(国道34号線)
⑲ 滝の観音(平間町)	・諫早駅行き、東厚生町方面行き県営バスで約50分「観音入口バス停」下車後徒歩約15分 ・車で約30分(国道34号線)
⑳ 牧島のハマナツメ群落(牧島町)	・江の浦方面行き県営バスで約40分「白の浦バス停」下車後徒歩約20分 ・車で約30分(国道251号線)
㉑ 網場天満神社の社叢(網場町)	・網場春日車庫前行き県営バスで約40分「網場バス停」下車後徒歩約1分 ・車で約20分(国道34号線)
㉒ 太田尾の大クス(太田尾町)	・飯香浦行きバスで約40分「上方バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約30分(県道34号線)
㉓ 茂木植物化石層(茂木町)	・北浦行きバスで約30分「茂木港バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約20分(県道34号線)
㉔ 宮摺山神の社叢(宮摺町)	・宮摺行きバスで約40分「宮摺バス停」下車後徒歩約20分 ・車で約30分(県道34号線)
㉕ 豊前坊社のエノキ(香焼町)	・香焼恵里行きバスで約50分「香焼本村バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約30分(県道29号線)
㉖ 岩立神社のエノキ(香焼町)	・香焼恵里行きバスで約50分「香焼本村バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約30分(県道29号線)
㉗ 深堀陣屋跡のアコウ(深堀町5丁目)	・香焼恵里行き、深堀行きバスで約40分「深堀バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約25分(県道29号線)
㉘ 竈神社の大クス(宮摺町)	・宮摺行きバスで約40分「宮摺バス停」下車後徒歩約10分 ・車で約30分(県道34号線)
㉙ 藤田尾のヤブツバキ(藤田尾町)	・川原行きバスで約40分「為石バス停」下車後、コミュニティバス三和線で約20分「藤田尾下バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約45分(県道34号線)
㉚ 川原住吉神社のクスノキ(川原町)	・川原行きバスで約50分「川原住吉神社バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約35分(県道34号線)
㉛ 川原大池樹林(宮崎町)	・川原行きバスで約50分「川原公園前バス停」下車後徒歩約5分 ・車で約35分(県道34号線)
㉜ オオウナギ生息地(野母崎樺島町)	・樺島行きバスで約1時間10分「樺島バス停」下車後徒歩約7分 ・車で約60分(国道499号線)(県道251号線)

身近な自然とのふれあい 長崎市で開催されているイベントの紹介

自然に親しみ・自然を知り・自然を観察することで
身近な自然の大切さを一緒に考えてみませんか。

草木の観察会



川のいきもの観察会



海辺のいきもの観察会



湿地の希少生物観察会



野山でのネイチャーゲーム



干潟でのふれあいと野鳥観察会



様々な感覚(五感)を使って、自然を直接体験することで、自然と自分が一体であることに気づくことを目的としたプログラムです。

イベントの一例 (長崎市親子環境教室)

- 春季／野山でのネイチャーゲーム
- 夏季／海辺のいきもの観察会、川のいきもの観察会
- 秋季／グラバー園での草木の観察会 など
- 冬季／野鳥の観察会、湿地の希少生物観察会

上記以外においても県、市、団体等が主催する自然環境関連のイベントが多く開催されています。
詳しくは、「長崎市環境政策課」へお尋ねください。

わたしたちにできること ~小さなことから始めよう~



海浜のそうじ(自治会、事業所等)



河川の清掃(学校・自治会等)



河川の清掃(市民環境活動団体等)



ホタル観賞会(公民館講座等)



環境学習会(自然環境・ホタルについて)
小学校・自治会・市民環境活動団体等



川のいきもの調べ(小学校・自治会等)

- 海浜の浜そうじ……………沿岸環境の保全や海・渚の大切さを認識していただきます
- 河川の清掃……………水環境と人との関わり合いを知り、生物のことも考えた環境保全の大切さを知っていただきます
- ホタル観賞会……………神秘的なホタルの飛翔を観察し、自然環境の大切さを知っていただきます
- 環境学習会……………長崎市の自然環境の実態を知り、環境保全に対する一助としていただきます
- 川のいきもの調べ……………川のいきもので水の汚れ具合を知り、川をきれいにするための啓発活動につなげていただきます

用語集

- 【え】・塩生植物(えんせいしょくぶつ)……………海水が流れ込むような塩分の多い土地に生える植物。
- 【お】・尾根(おね)……………谷と谷に挟まれた山地の一番高い部分の連なり。
- 【か】・海蝕(かいしょく)……………潮流や波が海岸や海底を少しずつ削り取ること。 ・海蝕崖(かいしょくががい)……………海蝕によってできた海岸のけ。
 - ・海跡湖(かいせきこ)……………かつて海であった場所が、外海から隔離されてできた湖や沼沢。
 - ・河口干潟(かこうがた)……………河川が海や湖など他の水域へ注ぎ込む部分で細かい砂や泥がある程度の面積で堆積した潮間帯。
 - ・カルデラ……………火山の活動によりできた大きな窪(くぼ)地。
- 【き】・希少種(きしょうしゅ)……………生息数が少ない生きもの。 ・汽水域(きすいいき)……………河口など、海水と淡水が混じりあっている水域。
 - ・寄生植物(きせいしょくぶつ)……………他の植物に寄生し栄養分を吸収して生育する植物の総称。
 - ・凝灰角礫岩(ぎょうかいかくれきがん)……………直径32ミリ以上の火山岩塊と多量の火山灰とからなる岩石。 ・巨樹(きょじゅ)……………大きな樹木。
- 【け】・景勝地(けいしょうち)……………よい景色、自然のよい風景を見られる場所。 ・境内(けいだい)……………神社・寺院の敷地内。
 - ・傘形花序(さんけいかじょ)……………中心の太い茎が非常に短く、一点から四方八方に枝分かれした花の部分。
- 【さ】・里山(さとやま)……………人の生活圏の周辺の低山地から田や畑などの耕作地、溜池や小川などの全体を意味する。 ・沢(さわ)……………山あいの谷川。
- 【し】・自生北限地(じせいほくげんち)……………栽培によらず、自然に生えた分布の最北限。
 - ・社叢(しゃそう)……………神社において社殿や神社境内を囲うように密生している林。 ・樹冠(じゅかん)……………樹木の枝や葉の茂っている部分。
 - ・樹勢(じゅせい)……………樹木の生育状態。 ・樹叢(じゅそう)……………その地域に自然に生え育った樹木が密生している林地。
 - ・照葉樹林(しょうようじゅりん)……………冬でも落葉しない広葉樹で、葉の表面の角質の層が発達した光沢の強い深緑色の葉を持つ樹木に覆われた森林。
 - ・新世代植物化石(しんせだいしょくぶつかせき)……………約6,500万年前から現代までに相当し、草木・藻類などの化石を含んだ地層。
- 【せ】・絶滅危惧種(ぜつめつぎんしゅ)……………種の数か絶滅の危険にさらされている少ない種。
- 【た】・棚瀬(たなせ)……………海浜の小石(礫)や砂などが石灰質により固結してできた、一種の海浜性の堆積岩で洗濯板のような形をしている。
 - ・棚田(たなだ)……………山の傾斜地につくられた階段状の水田。 ・多年草(たねんそう)……………2年以上にわたって生育する植物の総称。
 - ・旅鳥(たびどり)……………渡りの途中、ある地域に主として春と秋の二回現れ、繁殖も越冬もしない鳥。
- 【て】・低湿地群落(ていしつちぐんらく)……………淡水や海水によって冠水する低地において種々の植物が全体として一つの共同体としての特徴を示しているもの。
 - ・汀線(ていせん)……………海面と海浜との交線をいい、満潮時と干潮時でことなる。
- 【な】・夏鳥(なつどり)……………春から夏にかけて日本に渡って繁殖し、ひなを育て秋に再び温暖な越冬地に行く。 ・南麓(なんろく)……………山の南側の下の部分。
- 【に】・二次林(にじりん)……………原生(一次林)が伐採や山火事などによって破壊されたあと、自然または人為的に再生した林。
- 【ふ】・冬鳥(ふゆどり)……………主として越冬のために日本より北の国から渡ってきて、冬を日本で過ごし、冬が終わると再び繁殖のために北の国に渡って行く鳥。
 - ・文人墨客(ぶんじんぼっかく)……………詩文、書画など風流に親しむ人。
- 【む】・胸高幹囲(むねだかみきまわり)……………成人の胸の高さの位置における立木の直径。 ・目通り幹囲(めどおりみきまわり)……………人の眼の位置に当たる樹幹の直径。
- 【よ】・葉腋(ようえき)……………葉と葉のついている茎との またになった部分。
- 【り】・留鳥(りゅうちょう)……………渡りなどの季節的な移動を行わず、一年中ほぼ同じ地域にすむ鳥の呼称。 ・林床(りんしょう)……………森林の樹木の下地の表面のこと。

国内初のティラノサウルス科大型種の歯の化石が 長崎半島西海岸で発見されました



長崎市の三ツ瀬層(約8100万年前)から新たに発見された恐竜の歯の化石

●ティラノサウルス科の歯(2点)

【図 左】 ・最大幅38mm
・厚さ27mm
・歯根を含む高さ82mm

【図中央】 ・最大幅37mm以上
・圧密変形以前の厚さ22mm以上
・歯の高さ78mm以上

●獣脚類の歯(1点)

【図 右】 ・最大幅22mm
・厚さ11mm
・高さ37mm

公表時期 ■ 2015年(平成27年)7月14日
発見場所 ■ 長崎市の長崎半島西海岸

[これまで長崎市で発見された恐竜化石の一部について]



公表時期 ■ 2010年(平成22年)7月2日
発掘場所 ■ 長崎半島の西海岸
部 位 ■ 左大腿骨遠位部(膝の部分)
大 き さ ■ 幅28cm(全長10mの恐竜のものと想定)
恐竜の種類 ■ 草食恐竜のハドロサウルス科



公表時期 ■ 2012年(平成24年)3月12日
発掘場所 ■ 北浦町(茂木地区)
部 位 ■ 右大腿骨骨頭部(骨盤への関節部)
大 き さ ■ 長さ約41cm、骨頭部幅23cm、
大腿骨軸部幅14cm
(全長6mの恐竜のものと想定)
恐竜の種類 ■ 草食恐竜のハドロサウルス科の可能性が高い

■協力(調査協力、写真提供)

[長崎市自然環境調査委員]

中西弘樹(植物・植生)、松尾公則(両生類・爬虫類・哺乳類)

菅野聖二(鳥類)、田中清(昆虫類)、深川元太郎(水生生物)

この自然環境ガイドブックは、関係機関をはじめ多くの皆様のご協力をいただき作成しました。

■平成28年(2016)3月発行

■編集・発行 長崎市環境部環境政策課 〒850-8685 長崎市桜町6-3

TEL 095-829-1156 FAX 095-829-1218 メールアドレス:kankyo@city.nagasaki.lg.jp